

# 長野県果樹試験場同窓会だより

No.31

長野県果樹試験場同窓会発行

長野県農業大学校農学部果樹実科・研究科事務局内

〒382-0072 須坂市大字小河原 492 TEL 026-246-2415 FAX 026-251-2357

## 同窓会員の皆様へ

昭和56年度卒

会長 前 島 満



果樹試験場同窓会75周年記念事業の開催が、令和元年の定期総会で決議され、その後足掛け4年にわたり多くの卒業生、試験場職員、それに団体・企業の皆様のご理解ご協力のもと、無事成し遂げる事ができましたことをこの場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

なお、今年度末、ご寄付頂いた卒業生の皆様に収支決算書を郵送し、75周年記念事業を完結したいと考えております。重ね重ねありがとうございました。

今年一年を振り返ってみますと、桜の開花が例年より早く、当然リンゴの開花も早く、そのため遅霜にあい着果不良・品質低下、そして夏の高温による障害果の発生・水不足による肥大抑制、その延長による着色不良とここ数年マイナスのスパイラルが続いている感じがしています。このスパイラルを断ち切ることはなかなかできません。ならば違うものに着目する必要があると考えます。

日本の暖かい地域の品目を試験する必要性が県としてはあるのではないかと思います。この危機感を生産者、研究者ともに共有し、地球沸騰化と言われ始めたこの時期をうまく乗り切らなければなりません。時間は後戻りしません。未来を先取りするそんな試験場に生産者は期待します。



## 果樹試験場周年記念式典

### および祝賀会に感謝

果樹試験場長 笹 脇 彰 徳

果樹試験場長を務めさせていただいて2年目となりました。この間、同窓会の皆様には果樹試験場75周年記念事業をはじめ、果樹試験場並びに農業大学校果樹実科研究科に多大なご支援、ご協力をいただいておりますこと、紙面をお借りしまして感謝申し上げます。特に新型コロナウイルスの感

感染症の急激な拡大により延期となっておりました長野県果樹試験場75周年の記念式典および祝賀会につきましては、令和5年7月20日に開催していただき、多くのご来賓や同窓会の皆様にご出席をいただく中、大変に盛大なお祝をさせていただきました。またその中で、軽トラック、高所作業車、りんごの育種短縮化ハウスの換気システム、ぶどうの新品種育成用の棚など多くの貴重な寄贈品を果樹試験場へいただきました。重ねて感謝申し上げます。

さて本年度の学生について報告をさせていただきますと、研究科生が6名、実科生が21名となっています。近年の実科生は、農業関係以外で社会人を経験した後、実家の果樹園を継ぐために入学してくる学生の割合が多くなっており、各々がしっかりと目的をもって栽培技術や新品種に関する知識の習得に励み、日々の実習などに生き生きと取り組んでいる姿が見られております。彼らが卒業後に地域のリーダーとして育ち、長野県の果樹生産をけん引してくれることを期待しているところです。

令和5年度は、第4期の試験研究推進計画（ステップアッププログラム）を開始する年に当たりました。研究推進計画を作成するに当たっては、今世紀半ば頃に予想される県内果樹産業の姿をしっかりと予想した上で、今後必要とされる省力化の技術、多様な嗜好に対応できる栽培しやすい新品種、持続可能な果樹栽培のための病虫害防除技術や地球温暖化に対応した技術などの開発を進めることにしております。果実流通がグローバル化する中において今後様々な変化が生じるとは思いますが、同窓会の皆さんに活用していただける技術を開発してまいりますので、今後とも果樹試験場へのご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

## 同窓会だより発刊によせて

令和5年度父母の会会長  
榛葉尚子

私は大町市に生まれ、結婚するまで大町市で暮らしていました。山、川、田んぼ、畑、大自然の恵みの中育ちました。当たり前前の景色には特別な思いもありませんでしたが、結婚して妊娠している時に見た、北アルプス!! 気づきました。何て雄大で美しいのだろうと・・・道端に咲いている花の可憐さ。今まで感じた事のない感情で、初めて大自然に感謝しました。

その後二人の子供に恵まれ、忙しい日々を過ごしフッと気付くと50代。次なる心の変化、神社仏閣に興味湧き、御朱印帳を購入、今年は主人を誘い諏訪大社4社巡り、戸隠神社5社巡りに行って来ました。神社を参拝し心安らぐそんな日々を迎えるとは想像もしていませんでした。

子育ての中では腰痛のため、リンゴの手伝い草取りをしては病院通いをしていましたが7年前に息子がどうしても犬を飼いたいと芝犬を家族に迎え毎日散歩をしたおかげで足腰が丈夫になりました。来春から私の父と息子が、リンゴ、米作りを一緒にやる予定です。体が丈夫になった私も微力ながらお手伝いができそうです。

私は農業の事は全く分かりませんが、果樹実科・研究科で楽しそうに学んでいる息子を見て、先生方と仲間の学生の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。今後ともご指導をよろしくお願いいたします。

## 果樹産地視察研修報告-1

### 中南信方面果樹産地視察

果樹実科 永井 恵介



#### 1 南信農業試験場（等々力氏）ナシ栽培

・県下では、栽培品種が「幸水」、「南水」、「豊水」が8割以上を占めており、りんごと比べると品種に偏りがある。

江戸時代後期までは立木だったが、喬木であり木の上と下では品質差が大きくなってしまふ。また、秋の台風で落果してしまうリスクがあり、棚栽培へと移行した。

**所感：**消費者目線だと、品種が少ないことで分かりやすく覚えやすい。りんごは農家ですら20種類ぐらいしか知らないこともあり、ナシの品種はわかりやすくていい。生産する側も、品種構成で悩む必要もなく、栽培技術も確立しているので、導入しやすいのではないかと感じた。ただ、棚を作る必要があり、資材が高騰していることもあることから、棚を作るならぶどうを導入したい。

#### ・ジョイント（V字）トレリス樹形

メリット：労働力削減、成木までの期間の短縮（普通樹10～15年、ジョイント7～8年）でき、収穫も3年目から始められる。



デメリット：枝の位置での品質差、普通樹より玉が小さい。新梢が出にくく、古い側枝が低品質になってしまう（15～20年で限界かも・・・？）。

大きい苗木を作るのが難しい。

**所感：**労働力削減は間違いなく効果的。管理や収穫がしやすく、形さえ作ってしまえば、誰でも収穫しやすい。棚を作る必要もなく、初期投資も普通樹より少なくなりそうなので、導入のしやすさはあるが、デメリット

として15年で更新になってしまうのは少し痛い。りんごの高密度植は、一本一本更新していけばよいが、ジョイントの列ごと更新する必要があるため、収益が上がってき切ることにもなりそうなので、経営の選択肢として考えていきたい。

・苗木栽培（目標4m）

大きい苗木を作るのが大変。成長が弱いものは、ジベレリンペース（年間3回まで）を塗って成長を促す、苗木育成は2年かかる。

**所感：**りんごの苗木より長くなるので、トレリスを用意する必要がある。なかなか苗木を自分で作るの難しいと感じた。

2 田中光太郎氏（りんご）

・畑の5%ずつ改植を行っている。  
・苗木は自分で作った方が気候があうのか、購入するものより愛着もでるので、作れるものは、自分で作ろう。

・草生栽培はホーン、ケンタッキーを使用（背が高くなる品種を選択）。

・ふじは2回で全部取っている。7割以上良好。

・遊びの面積を10aはやっている。10aも遊べないような経営をしてはそもそもダメ。面白味をもった経営、栽培をやってほしい。

・ジョイントなどの違う栽培方法を行うと、植物の生理の勉強にもなっている。先進的な栽培方法をどんどん試してやってもらいたい。

・4年で新しい品種を作ることができるので、マーケットインの考え方も持った方がいい。

**所感：**木がとにかく綺麗だった。

労働力削減のためへ常に思考し続けていることに尊敬。従来どおりでも、維持はできるかもしれないが、発展はない。参考にしたい人と出会えた。田中さんの親ともつながりがあるので、一度プライベートで会いに行こうと思う。

私はまだまだ基礎を学ぶだけで、新しい栽培方法を試すだけの余裕がないので、それくらいの余裕を早く持てるように学び続けていきたい。

高密度植だからこそできるマーケットインの考え方は、発見だった。視野を広くもった経営を行っていきたい。

視察を受け入れていただいた南信農業試験場、田中光太郎氏に改めて感謝申し上げます。

今後も、様々な先輩農家さんにお会いし、その際は長野県の果樹を今以上に発展させるべく、たくさん学び、吸収していきたい。長野県果樹試験場OBとして、県内外に誇れるよう、今後も切磋琢磨していきたい所存でございますので、畑にお邪魔した際は、よろしく願いいたします。





## 果樹産地視察研修報告-2

### 中国・四国方面果樹産地視察研修

果樹研究科 中島 光

1 岡山県農林水産総合センター農業研究所

(岡山県赤磐市)

今回の視察では果樹研究室でモモの育種を担当している鶴木さんからモモについてのお話を聞くことができた。

まず、はじめに岡山県のモモの生育状況についてだが、現在、岡山県で主に栽培されているモモは「清水白桃」である。今年の生育状況としては、例年より1週間早い3月30日に開花をむかえた。開花が早まると凍霜害が懸念されるが、今年の春先は高温だったため被害は少なかった。その後、果実肥大は順調であった。しかし、5月上旬の硬核期に入るタイミングで例年より雨が多く降ったため核割れが発生し、生理落果が多発した。そのため去年よりも30%~40%出荷量が減ってしまっている状況である。また病害虫に関しては、せん孔細菌病が多く、葉にも見られた。葉にも見られると来年への影響が懸念されるため周期防除を徹底して行う必要がある。また虫害についてもカイガラムシ、主にウメシロカイガラムシ、クワシロカイガラムシ、ナシマルカイガラムシが多いため注意が必要。また現在、岡山県では確認されていないもののモモの木を食害し枯死させてしまう「クビツヤアカカミキリムシ」への対策を徹底して行っている。

ここからは、栽培方法になるが、基本的に岡山県におけるモモの栽培方法としては開心自然形であり、主枝3~4本を斜め上に伸ばす方法を取っている。最終的には南北に2本伸ばす形となる。樹間としては10m×10mとして枝が重なり合わないよう余裕ある樹間。最低でも8m×8mは必要である。また新しい栽培方法としてモモでの矮化栽培に取り組んでいる。モモの矮化栽培は基本的には、垂主枝を作ることなく主枝に側枝を配置し主枝をY字形に南北へ伸ばす。南北に主枝を伸ばす理由としては日照量の確保である。また台木として「ひだ国府紅しだれ」を用いている。「ひだ国府紅しだれ」は低樹高で栽培するのに適した台木であるため選抜された。また矮化栽培は樹間も4m~5mとコンパクトとなっている。そのため開心自然形より植える本数は2倍になるが、早期多収量になる。このことから今後は矮化栽培が主流になっていくのではないかと感じた。



次はモモの新品種育成についてだが、先述のように岡山県では「清水白桃」が主要栽培品種であり非常に偏っている。そのため、年によって品質のバラつきや需要と供給による単価の変動により農家にとっては、不安定な所得となっている。そのため岡山県では「岡山白桃」の特徴を持った県オリジナル品種のシリーズ化を目指してモモの新品種育成を

行っている。その代表として2つほど紹介する。1つ目は「白皇」（岡山 PEH7号）。成熟期が8月中旬～下旬と収穫期が遅いため防風ネットなどによる台風対策が必要である。また、裂皮が発生しやすいので底が有るオレンジ袋で被袋する。開花がかなり早いので遅霜に注意が必要である。2つ目は「白露」（岡山 PEH8号）。成熟期が8月下旬～9月上旬と収穫期が「白皇」同様遅いため台風対策が必要である。また結実率が低いため摘蕾は行わない。袋に関しては、必ず白黒袋を被袋するという注意が必要である。

今回、岡山県農林水産総合センター農業研究所ではモモの栽培方法や岡山のモモのオリジナル品種等を知ることができ非常に良い経験ができた。

## 2 赤木賢一氏（岡山県岡山市）

赤木賢一さんは50代のとき就農した方でそれまでは農協に勤めていた。今回は、有核の「マスカット・オブ・アレキサンドリア」の栽培方法について色々とお話を聞くことができた。

赤木さんの園地は410坪と小規模であり、その栽培面積の中で、より高品質の房を目指している。贈答用をメインで栽培しているため労働時間、新梢管理や房作りに掛かる時間が長野県に比べて非常に多い。これはホルモン処理を実施せず、養分のコントロールだけで果粒自体を肥大させているからである。また赤木さんは常に竹籤を持ち歩いており、それを使って玉直しを行っている。潜り込果粒がなく非常に綺麗な房形になっていた。



ここからは有核の「マスカット・オブ・アレキサンドリア」の房作りと新梢管理についてだが、果粒肥大を優先するために果粒が充実している花穂上部を使って房作りを行う。方法としては、花穂が形成される開花始めまでに、各小花穂の最初の2分岐を残して、その先を切り取る。切り込みが不十分だと房形が乱れる要因になるため注意が必要。摘粒に関しては、3回に分けて行う。1回目の摘粒において100粒以上着粒するためそれを60～80粒まで間引きを行う。2回目の摘粒では、小粒、変形粒、無核粒を中心に摘粒し、55～65粒程度まで摘粒を行う。3回目は仕上げで生理障害粒を取り除く。長野県と違って残す粒数が多いと感じた。新梢管理は従来との管理とほとんど変わらなかった。但し、副梢から再発生する孫枝を徹底的にかき取る方針のもと新梢管理を行っていた。赤木さんの園地でも徹底的に孫枝をかき取ってあったことに驚いた。樹形の作り方に関しては、岡山県では傾斜地が多く限られた面積しかないためガラス室が多い。そのためガラス室に適した地表近くに主枝を置き、垂主枝を上に向かって櫛状にあげる「パルメット整枝」である。長野県では見ることのない樹形を見ることができたのは新鮮だった。

今回、赤木さんの園地では岡山県独自の栽培様式や栽培方法を知ることができ、また徹底した新梢管理と摘粒でここまで肥大した粒になるのだと改めて痛感する機会となった。

3 愛媛県農林水産研究所果樹研究センター（愛媛県松山市）



愛媛県は山と海の距離が近いいため平地が少なく傾斜地が多い、そのため水はけがよい、また冬が来るのが遅く冬が来てもそこまで気温が下がらないため、みかんを栽培するのに適している。しかし、傾斜地が多いため作業性が悪く防除の省力化が課題である。みかんの剪定は春に行く。基本的に剪定と枝つりで果実に対する日照の確保を行い葉摘みなどの作業は行わない。（しかし病害虫が発生した場合のみ取り行う。）葉摘みをせずとも多少の日照量でみかんは着色する。みかんの木の樹間の目安としては、3m×3mとなっている。

ここからは主要なみかんの品種特性について。

ここからは主要なみかんの品種特性について。

「甘平」はシャキッとした独特の食感と濃厚な食味が特徴的な品種だが裂果が多いため定期的な灌水を行い、急激な水分吸収を防ぐ必要がある。また、樹勢が強いため発芽前の4月頃に断根を行い、樹勢を落ち着かせる処置が必要な時もある。隔年結果しやすいのでつけすぎないように適正着果に保つことも重要。

「温州みかん」は味と食べやすさを兼ね備えた品種で寒さに強いが寒くなる前には収穫する必要がある。海からの照り返しにより海沿いの温州みかんの方が色付きがよく質が高い。

ここからは落葉果樹のキウイフルーツについて。

キウイフルーツの花粉は入手すること自体が難しくなっている。そのため、現在、果樹研究センターで花粉を作る取り組みとともに花粉生産を商業的に捉えて花粉ビジネスというものを行っている。花粉は20gで約35,000円である。

今回の愛媛県農林水産研究所果樹研究センターでの視察を通じて常緑果樹の栽培管理を知ることができた。



4 竹森ガーデン 竹森洋輔氏  
（愛媛県上浮穴郡久万高原町）

竹森ガーデン（竹森洋輔氏）は久万高原町でぶどう狩りを行っている唯一の果樹園で、「デラウェア」、「キングデラ」、「紅伊豆」、「ピオーネ」、「シナスマイル」などを中心に栽培していた。全く知らないことばかりだったので新鮮であるとともに多くの品種や落葉果樹の培方法との共通点など新たな発見もあり、非常に実りある視察場所であった。

竹森さんは長野県農業大学校の卒業生であり、21歳で就農する。観光農園として農作物は100%出荷しており就農したばかりの頃はりんごも栽培していたが温暖化の影響でりんごの開花時期の気温が27~28℃もあり、人工授粉でも着果しにくくなってきたため2年前に全て伐採した。また、この地域では2,000mmを超える雨が降るためぶどう栽培において雨よけ施設は必須らしく、ほぼ全面に簡易雨よけが施されていた。また、四国地方は毎年台風の通過は免れない。そのため簡易雨よけを全面ではなく、風の抜け方を考えて一部分的にビニールをとるという防風対策を行っていた。土壌は黒ボク土で多少の乾燥にも耐えられる土壌性質なうえに降水量も比較的多いため、灌水などは全く行っておらず寧ろ8月中の灌水は一滴もいないほどだ。樹形はダブルH型の短梢剪定栽培になっており、袋は福友産業株式会社のフクユーエリート 窓開袋だった。また、傘に関して紅伊豆は日焼けするため、傘をするがそれ以外の品種には傘をかけていない。70歳まで作業できるようにするために現在では園地の改植も行っている。

今回の竹森ガーデンでの視察を通して広大な園地での栽培技術を知るとともに販路の確保は農業生産をしていくうえで非常に大切なことであると実感した。竹森さんは取れ高が100%分かるオーナー制度を導入しており、出荷先の7割近くが決まっている。出荷先が決まっているからには確実に出荷先に必要な分は確保しなければならない。だが、販路が決まっている分、生産者の生産に対する意欲やモチベーションに繋がるのではないかと考える。観光農園ならではのお話を聞くことができ非常によかったと思う。

## 5 (株) 大果大阪青果 (大阪府大阪市)



大果大阪青果中央卸売市場は大阪市民の台所をあずかる大役を担っており、取扱高・品目ともに西日本最大級のバリエーションを誇っている。

また業界成績は全国第2位であり西日本ではNo.1となっている。長野県産の「デラウェア」や「シャインマスカット」、スイカなども見ることができた。また、競りを間近で見ることができた。競りではハンドサインがあり、それによりやり取りをしていることを知らなかったので非

常に貴重な経験をすることができたと思います。



会員コラム



## 30年前、あの時

平成5年度卒

小林基博

私が果樹研究科に在籍していた1993年、長果10号の試食させて頂いた記憶があります。ふじとつがるの交配種としか知らされておらず、「甘いけど完熟したジョナの方が酸味があって

美味しいなあ。」と言うのが率直な感想でした。月日が経ち当時の長果10号も「シナノスイート」として世に出て、今では長野県を代表する中生種になりました。まさかここまでになるとは当時の私には・・・。

かく言う私も就農して30年。現在2.4haの農園で、リンゴ、プルーン・サクランボを生産しています。この間社会情勢や経営の中身など大きく変わりました。中でも販売形態の変化は大きく、農事組合法人向けと自家販売の2本立てから、現在は全量自家販売に切り替えました。受注から発送、入金管理まで事務量が膨大で大変ですが、最近は多様な販売先に恵まれ、お客さんとのやりとりや反応が楽しく、やりがいがあります。

それに合わせ、品種構成の見直しも行いました。現在は「シナノリップ」から「ふじ」まで約17品種をリレーしています。裏メニューも入れると20品種以上になります。ここ数年「何か変わった品種はないですか？」という問い合わせが増えています。お客さんが既存の品種に飽きてきているのではないかと思います。小回りの効く経営なので、できないことはないのですが、その時期の柱になる品種がないと、まとまった売上にならず、ただ忙しいだけになってしまいがちです。

現状、「あいかの香り」、「ぐんま名月」、「はるか」、「シナノゴールド」に人気があり目下増産中ですが、黄色系リンゴは着色管理が不要なので、増産には最適と考えています。そのほかにも気になっている品種がありますが、10月中旬から11月に収穫期を迎えるものが多く、労力的に難しいので非常に悩ましい所です。

しかし、近年国内のリンゴの消費量が減っています。私の園のお客さんを見ても、就農当時に比べ客単価の減少や箱のサイズは小さくなっています。時代の変化と家族構成の変化と割り切っていますが、なんとか消費量を増やせない物かと思案中です。

今、盛んに「多様性」と言われています。これからも新しい品種が出てくると思います。色々な品種の特徴や味を知ってもらい、品種を選ぶ楽しさがあってもいいと思います。リンゴの品種の多様性も念頭に置きながら、リンゴの消費量向上につなげていけたらと思っています

会員コラム2

## 今の自分があるのは、

平成25年度卒  
清水 滉平



果樹試験場を卒業して10年が経った。忙しい日々を送っていた中で、今回このコラムの寄稿依頼を頂きこれまでに振り返る機会となった。

高校を卒業して試験場に入り、実科学研究科とお世話になった。入学当初は、農業の知識や技術がほぼ無かったが、この2年間のおかげで今の自分があると思う。なにより、在学中での人との出会いが自分にとっての大きな財産となった。卒業後も同期や研究員の方々とは連絡を取り合ったり、会ってお酒を酌み交わしたりした。

卒業後すぐに1年間オーストラリアへ単身渡った。元々海外への憧れもあったのと、在学中にリンゴの品種間における特徴の研究をしていたときに、海外由来の品種も取り扱っていたという事もあり、世界ではどんなリンゴが栽培されているのだろう？と一層好奇心をくすぐられた為旅に出た。現地でお世話になった農場で働かせていただいて感じたことは、まずその規模感に圧倒された。日本国内で一生産者が経営する圃場の数十倍の面積の圃場が一箇所に集約されていて、生産量や労働者の数、使われている農機具も桁違いだった。日本で同じような事をするのは土地も限られている中で厳しいと思うが、自分の中で視野が大きく広がった。

帰国後はすぐに就農し、家族とは別で新たに1haの土地を借りてりんご作りを始めた。最初は何をするにも思ったようには行かず、3年間の経験とのギャップに悩まされた。営農している中でも多くの人との出会いがあった。困った事があれば相談したり、一緒に地域を盛り上げて行く先輩やJAの人達など様々だ。そこでのご縁もあり、JAの青年部に加入することになった。青年部での活動は、イベント出店や地域ブランドの創出などとても充実していた。活動していて気付いたことは、誰かが困っていたらみんなですべて解決する、地域の課題はみんなの課題という気持ちでやっていることだった。個人で事業をやっている以上責任は自分自身に降りかかるが、決して一人で農業をしているのではないと実感し、この地域で農業ができて幸せだと思った。

今年度は、JA長野県青年部協議会の会長を務めさせていただき、県内盟友の代表として活動させてもらっている。現在、農業を取り巻く環境は依然として厳しい状況ではあるが、まだまだ農業には多くの可能性を秘めていると思う。自分もこの地域の一員として、より一層営農に励んでいきたい。

## 果樹試験場トピックス



### ぶどう「クイーンルージュ®」の 安定した着粒を得るための フルメット液剤加用の効果

果樹試験場育種部 研究員 市川悦子

2023年は、欧州系ぶどうを中心とした花振るいが問題となった。ぶどうの花振るいの原因は、開花期の低温や乾燥などの気象条件、樹体栄養状態の影響など複数の要因が関係していると考えられている。花振るいを軽減する有効な方法のひとつに、第1回目ジベレリン処理液へのフルメット液剤の加用がある。

今回は、試験場内の「クイーンルージュ®」の複数年の満開後の着粒状況と第1回目ジベレリン処理液へのフルメット液剤加用による花振るい軽減効果について紹介する。

#### 1 場内の試験樹の着粒状況の推移

(2016～2021年)

場内の平均的な樹勢を示す「クイーンルージュ®」（短梢せん定樹）を用いて、満開時の第1回ジベレリン処理（フルメット液剤無加用）後の着粒数（摘粒前）を調査した。その結果、2016～2019年（4～7年生）では、60粒以上の十分な着粒数となった。一方、2020～2021年（8～9年生程度）では、着粒数が40～50粒程度であり、樹齢の経過にともない、着粒数が減少する傾向を示した。特に2020年は、現地でも花振るいが多発生した年であり、極端に着粒数が少なかった（図1）。

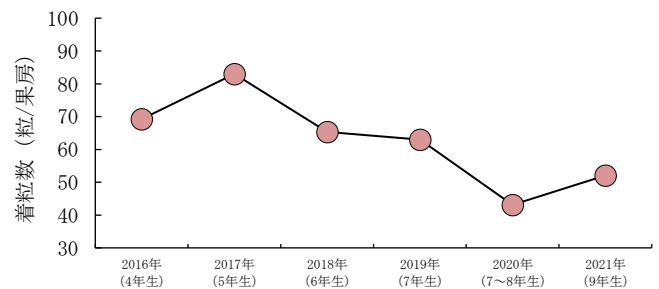


図1 着粒状況（摘粒前）の推移（2016～2021年）  
花穂整形時の果房長は3cmとした。3樹の平均値。

#### 2 樹勢と花振るいの関係（2020年）

花振るいが多発生であった2020年において、場内の樹勢の異なる樹における満開時の第1回ジベレリン処理（フルメット液剤無加用）後の着粒数（摘粒前）を調査した。

着粒数は、弱樹勢の樹（満開時の新梢基部径の平均8.0mm程度）は60粒程度であった。一方、強樹勢の樹（同平均9.5mm程度）は、40粒程度であり、着粒不足（着粒が35粒未満）の果房が25%程度発生した（図2）。このように、同一年次でも樹勢によって着粒数が異なり、樹勢が花振るいに大きく影響することを裏付ける結果となった。

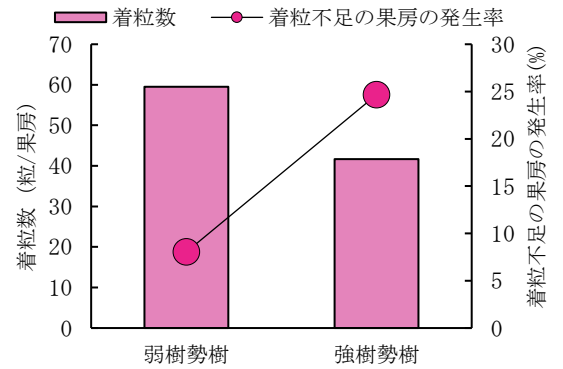


図2 樹勢別の着粒数（2020年）

### 3 第1回ジベレリン処理液へのフルメット（FL）液剤加用の効果（2020年）

同じく2020年に、場内の強樹勢の樹において、第1回目ジベレリン処理液へのFL液剤加用が、着粒数に及ぼす影響を調査した。その結果、FL無加用区では、着粒数が40粒程度、着粒不足の果房が25%程度発生したのに対し、FL3ppm加用区では着粒数が80粒程度、着粒不足の果房の発生は3%程度となり、花振るいが十分に軽減された（図3）。また、処理による糖度、着色および果粒重などの果実品質に、差は認められなかった。

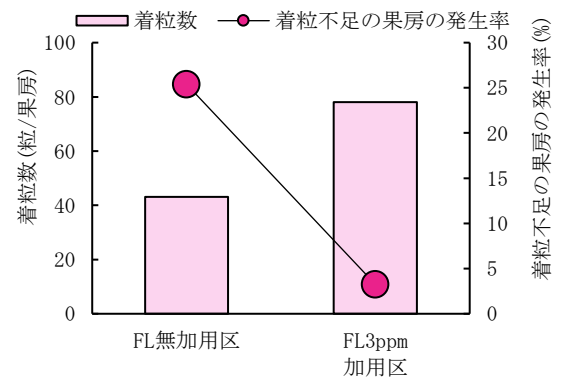


図3 第1回目ジベレリン処理液へのフルメット液剤加用の効果（2020年）

本試験は、開花前の新梢摘心を適期に実施し、第1回目ジベレリン処理を満開日～満開3日後に処理して得られた結果である。適正な栽培管理と適期処理を実施しないと十分な効果が得られない可能性もあるため、ご注意ください。

# 果樹試験場 75周年記念事業 = 報告 =



果樹試験場 75周年記念事業副実行委員長  
昭和55年度卒  
藤 沢 正 実

果樹試験場75周年記念式典が令和5年7月20日、長野市「ホテル国際21」（千歳の間）にて関係者多数参列の下、盛大に開催されました。当初、昨年開催予定でしたが、コロナ第7波の感染拡大期と重なってしまい一年延期して本年度開催の運びとなりました。

## 長野県果樹試験場同窓会だより第31号 令和6年1月発行

式典には来賓として地元4JAや農業関係機関・歴代場長・同窓会員など145名の出席を賜り盛大に行われました。

記念式典はテレビ・ラジオで活躍されている竹井純子さんの司会で進み、前島満同窓会長の挨拶では、「果樹試験場の優れた品種育成や栽培技術の開発などの功績は多大であり、長野県果樹産業の発展に、更なる期待をしたい」とあいさつ。

また、関昇一郎長野県副知事は「果樹試験場は、農業の実践的な学習を通じて果樹生産者を育成する役割を担い、2,000名を超える多くの優秀な卒業生は、県内の果樹生産を支える中核的存在として御活躍いただいているところであり、同窓会の皆様には心より感謝する次第です」と御挨拶がありました。

式典は、その後、記念事業経過報告・来賓祝辞・来賓紹介・祝電披露があり、そして、学生の現地剪定実習に係る園地手配や技術指導等、長きにわたる献身的な協力をされたとして、土屋嘉幸氏、越吉廣氏に感謝状が贈呈されました。

また、3世代にわたっての卒業世帯として同窓会特別表彰が行われました。

そして最後に、果樹試験場・農大へ寄贈品の目録を前島会長から笹脇場長へ贈呈されました。（詳細下記参照）

75周年記念式典に併せて、記念講演が行われ、野菜ソムリエ上級プロ・果物ソムリエのNAHOさんが「菜食健美・魅力的な信州産フルーツ」と題して講演して頂きました。

その後、祝賀会はウエルカム・ミュージック流れる中で、お互い和やかな中で、御歓談されておりました。

最後になりますが、本事業を実施するにあたり、趣旨に賛同いただいた皆様は、協賛企業・団体79社、同窓生326名、県職員26名にのぼり、（合計431名）記念事業が実施することが出来ましたことに対し、協賛頂きました皆様には、心より深く感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

### 果樹試験場75周年記念事業・実施内容

#### ○記念式典及び祝賀会

令和5年7月20日

ホテル国際21（145名参加）

#### ○物故者供養（令和4年7月27日） 於：善光寺内々陣

物故者氏名

（場長）

・広瀬健吉氏・早河広美氏・伊東喜隆氏・柳武氏・羽生田忠敬氏

（同窓会長）

・宮下今朝英氏・藤原英朔氏・土屋博太郎氏

#### ○長野県果樹試験場75周年記念誌「成蹊」の発行(令和4年7月)

内容・果樹試験場75周年に寄せて（20名）

- ・試験場の歩み（50周年以降）
- ・私の思い出、主張（95名）
- ・同窓会名簿
- ・寄付者名簿、協賛団体企業名簿
- ・協賛広告

○感謝状贈呈者（令和4年7月27日贈呈）

- ・土屋嘉幸氏 ・越吉廣氏

○同窓会特別表彰者（3世代卒業世帯）

- ・松尾寿男氏、松尾寿氏、松尾和明氏
- ・小林義次氏、小林良賢氏、小林鈴奈氏
- ・柳澤実氏、柳澤司氏、柳澤凱氏

○果樹試験場・農業大学校への寄贈品

- ・軽トラック（スズキキャリー）1台
- ・リンゴ育種短縮化ハウス換気システム（サイド巻き上げ機、資材一式2棟分）
- ・高所作業機（R5年10月2日納車）
- ・新品種育成用ブドウ棚一式
- ・圃場案内看板
- ・入学式、卒業式用横断幕

○寄付者数（合計430名）

- ・協賛企業・団体78社、同窓生326名、県職員26名

## 令和5年度同窓会総会報告

去る10月30日、果樹試験場農業技術館講堂において、「令和5年度果樹試験場同窓会総会」が開催されました。総会開催は新型コロナウイルス感染症で昨年より延期されていた「果樹試験場75周年記念事業」が7月に開催されたことから10月となりました。

令和4年度事業報告・一般および基金会計収支決算報告、令和5年度事業計画・一般および基金会計予算(案)の審議に加え、「果樹試験場75周年記念事業」の決算報告が行われ、修正の提案等はなく、賛成多数で原案のまま承認・可決されました。この中には、「果樹試験場75周年記念事業」にて同窓会より寄贈された物品の紹介や圃場視察も行われました。

（文責 農大果樹実科・研究科事務局）

令和6年度学生募集

令和6年度一般入学試験後期日程は、募集期間が1月4～17日、入学試験が2月1日に行われます。詳細については事務局にお問い合わせ下さい。なお、推薦入学試験及び一般入学試験前期日程は既に終了しました。

●受験資格

果樹実科：高校を卒業、若しくは、18才以上で高校卒業と同等以上の学力があると認められる者。

果樹研究科：果樹実科又は短大を卒業、若しくはそれと同等以上の学力があると認められる者。

●提出書類 入学願書 最終学校の調査書等

●受験料 2,200円(長野県収入証紙)

●提出先・問い合わせ先

長野県農業大学校果樹実科・研究科

〒382-0072 長野県須坂市小河原492

TEL 026-246-2415

FAX 026-251-2357

## 令和4・5年度果樹試験場同窓会役員体制

どうぞよろしくお願ひ致します。

会長 前島 満 (長野市)

副会長 松本 和実 (高山村)・藤沢 正実 (中野市)

監事 北村 佳弘 (須坂市)・永井 秀樹 (上田市)

## 令和5年度果樹試験場職員体制

場長 笹 脇 彰 徳 場総括

栽培部長	前 島 勤	部総括
主査	馬 場 孝 幸	ほ場運営
研究員	桐 崎 力	ブドウ
研究員	森 幸 穂	核果類
研究員	船 橋 徹 郎	核果類
研究員	櫻 井 美 央	リンゴ
技師	盛 次 陽 介	リンゴ
技師	田 邊 友 樹	ブドウ

育種部長	峯 村 万 貴	部総括
主任	細 井 直 明	ほ場運営
研究員	平 賀 正 浩	ブドウ
研究員	市 川 悦 子	ブドウ

研究員	上	條	和	明	核果類
研究員	山	口	維	尚	リンゴ
技師	小	林	尚	美	リンゴ
技師	土	屋	和	希	核果類
環境部長	江	口	直	樹	部総括
研究員	石	井	伸	洋	虫害
研究員	土	田		河	土壌肥料
研究員	簗	島	萌	子	虫害
技師	野	澤	堯	史	病害
技師	岩	岡	広	樹	虫害
臨任	丸	山	美	穂	病害

令和5年度農大果樹実科・研究科職員体制

特別教授	大	日	方	利	男	教務担当
特別教授	永	峯	英	和		庶務担当

果樹試験場親和会からのお願い

果樹試験場親和会では、果樹実科・研究科の卒業生がご結婚される際に、お祝い（レタックス）をお送りしております。  
同窓生のご結婚の情報がありましたら、親和会（農大事務局）までご一報ください。